

Vol.56 No.3

2015 年 3 月
特集

コースポートフォリオで授業改善！

看護の臨床現場や教育現場で、ポートフォリオの活用は珍しくなくなりました。しかしそのほとんどが、実践者である看護師や学生がつくるラーニングポートフォリオで、教員自身の教育活動情報や根拠を記したティーチングポートフォリオや、教育に加えて研究やサービス活動まで記したアカデミックポートフォリオなどは、まだほとんど見られません。上記の3つのような、情報の整理と保管を中心とする教育実践者のポートフォリオは、個人の成長に役立つものではありませんが、今後教育の現場において、より取り入れていただきたいのは、科目の担当教員がその「デザイン」「実施」「学生の学び」について記述し、それらに振り返りを加えながら作成していき、情報を共有するコースポートフォリオです。

本特集では、コースポートフォリオとは何かという基礎的な知識から、教員個人に、そして学校全体にどのように役立つかを具体的にご紹介します。情報共有により、看護だけでなく専門以外の教育分野とのより深い協力体制構築の可能性も含むコースポートフォリオについて、興味をもってもらえることを期待します。

- コースポートフォリオとは その概要とねらい……………酒井博之
- コースポートフォリオ作成で、高等教育機関での教育実践を記録し、共有し、改善しよう！……………村井淳志
- 医療系カリキュラム改訂のためのコースポートフォリオの活用事例……………平山朋子／西村敦／森田恵美子
- コースポートフォリオの今後の可能性……………田口真奈
- 【対談】コースポートフォリオを共有し、看護教育現場をオープンにしよう……………田畑典子／酒井博之



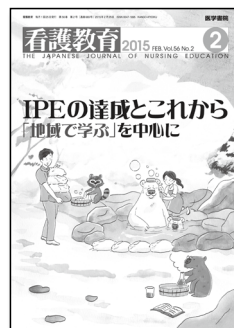
Vol.56 No.2

2015 年 2 月
特集

IPE の達成とこれから 「地域で学ぶ」を中心に

専門職間のチーム医療の重要性が主張されて二十年近くが経過している。教育機関においては、00 年代中頃より IPE が始動してきた。2006 年には、日本保健医療福祉連携教育学会が設立、2009 年には、チーム医療推進協議会が発足している。IPE は胎動期を終え、ちょうど発展期がきているといえるだろう。他学部と一緒に授業を受けてみる、見学する、という単発的な取り組みだけで満足することなく、先駆的な大学は学生入学時から卒業まで他学部合同でカリキュラムを編成するなど、発展的な取り組みがなされている。特に今特集では、IPE の特色といえるだろう、地域基盤型の実習の紹介を中心に、IPE が達成してきたこと、そしてこれからの課題を考える。

- 専門職連携コンピテンシーの確立——千葉大学亥鼻 IPE の展開から……………酒井郁子他
- 地域基盤型の IPE の展開——大学横断型の取り組みのなかで……………朝日雅也
- 滞在実習で育む地域医療マインド……………横山まどか／相馬仁
- SIPEC (群馬大学の学生組織) の活動と学生たちの声
SIPEC の 5 つの活動……………時田佳治他
学生の声 (WHO に訪問して)……………西村明日美
学生の声 (SIPEC の活動に参加して)……………小川将太
- 患者教育を実践する専門職連携協働のための連携教育——英国における地域医療の現場から……………大嶋伸雄



[2015 年 1 月号 (Vol.56 No.1)]

看護教員の教育力を UP する！

[2014 年 10 月号 (Vol.55 No.10)]

論文執筆のススメ

実例から学ぶ良い論文の書き方

[2014 年 12 月号 (Vol.55 No.12)]

理想的な「入学前学習」を求めて

[2014 年 9 月号 (Vol.55 No.9)]

求める学生確保のための方策
面接をめぐる課題を中心に

[2014 年 11 月号 (Vol.55 No.11)]

基礎と臨床がともに学ぶ場をつくる

自治体が協力するケースを中心に

[2014 年 8 月号 (Vol.55 No.8)]

学習の「質」を高める
パフォーマンス評価

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2013 年 2 月号 (Vol. 54, No. 2) 以前の号は、東亜ブック (TEL.03-3985-4701, FAX 03-3985-4703, <http://www.toabook.com/>)
- 2013 年 3 月号 (Vol. 54, No. 3) 以降の号は、医学書院販売部 (TEL.03-3817-5659) にお願います。